

令和3年度 東泉小学校授業改善推進プラン

○ 教科【国語科】

1 児童の状況及び実態

- 漢字の読み書きの力は伸びている。
- 学習した漢字を、文章の中で適切に使って書くことを面倒がる傾向がある。
- 語彙が少ない。
- 目的や場に応じた話し方が身に付いていない。
- 書くことを自ら見つけて作文する機会が少ない。
- 文章や問題文を読んで内容を正しく理解する力が十分でない。
- 読んだり聞いたりしたことに対して自分の考えをもつことが苦手である。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- 文章の構成や、一つの文を作る語の関係を理解させる指導の充実。
- 文章全体を読み、主語・述語、段落や接続語に注目して、内容を正しく読み取る指導の充実。
- 漢字の読み書き、言葉の意味などに関する個別指導の徹底。

【思考力、判断力、表現力等】

- 考えたことや感じたことから自分で書くことを選んで作文に表す指導の充実。
- 目的意識、相手意識をもって書いたり話したりする場の設定。
- 根拠を明確にして読んだり書いたり話したりする活動の意図的な設定。

【学びに向かう力、人間性等】

- 国語を大切に、思いや考えを伝え合う活動の充実。
- 学んだことを実生活に生かす学習の充実。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- 言葉の働き、話し言葉と書き言葉、言葉遣い、表現の技法に関する事項の習熟のための、計画的なワークシートの活用を充実させる。
- 教科書の巻末に掲載されている「これまでに学習した漢字」を総合的に用い、習熟を図る。
- 語句の意味調べと活用に関する取組を丁寧に行う。

【思考・判断・表現】

- 《話すこと・聞くこと》話し合い、伝え合いの場を充実させる。
- 《書くこと》題材の設定や情報の収集を児童が自ら行うための活動を指導計画に導入する。効果的な構成、推敲の指導を行う。
- 《読むこと》要旨の捉え方、段落の関係の読み取り方の工夫をする。意見や感想をもつ場を拡充させる。サイドラインを引いたり印をつけたりしながら読む習慣をつける。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 形態を工夫した話し合い・伝え合いの場を積極的に設定する。
- 図書館を活用した調べ学習の充実を図る。
- 日記やノート、プリントなどに漢字を使って書くことに粘り強く取り組ませる。また、短作文等に継続的に取り組み、楽しみながら必要な事項を確実に身に付けることができるような取組を工夫する。

令和3年度 東泉小学校授業改善推進プラン

○ 教科【社会科】

1 児童の状況及び実態

- 資料を見て、そこから読み取ることができること、考えられることを見つけることができない。
- 用語や都道府県の位置や名前への興味・関心が低い。
- 社会的事象の意味を考え、自分の分かったことを整理してまとめて書くことに苦手意識がある。
- 物事の関係性に関する知識の定着が不十分である。
- 学んだことを実生活に結び付けて考えたり、社会の問題について自分なりの考えをもったりする力が不足している。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- 資料を正しく読み取る学習の充実。
- 単なる暗記などの知識習得型から探求型や活用型学習への教師の意識の変換。

【思考力、判断力、表現力等】

- 資料から読み取ったことを文章でまとめたり、社会的な課題について話し合ったりする活動の充実。
- 実際に見たり聞いたりして分かったこと、考えたことを発信する活動の充実。

【学びに向かう力、人間性等】

- 身近な社会事象と関連付けた授業の工夫。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- 資料の読み取り方を指導し、課題解決に必要な写真やグラフなどの資料を常設する。
- 「私たちの生活は、先人や働く人々の苦労と工夫でできている」ということに気づくことが、社会科全般に通じる目標であることを意識した単元構成を工夫する。
- 学習事項や用語、地図と関連付けた地名等を掲示する。

【思考・判断・表現】

- 新聞記事やコラム等を読んで、考えを書く学習を定期的に取り入れる。
- 個人→グループ→全体で共有する場を、一単位時間の中に入れ、資料から考えたことをもとに話し合い、問題解決につなげる学習展開を常に行う。
- 学習問題を振り返り、授業の重点的な内容はどこかを捉えさせ、観点を示してまとめさせる。
- 資料を提示して、そこから読み取れることを話し合わせたり、学習課題に対する考察や解決策をグループで考えさせたりする学習活動を増やす。
- 「自分だったら、現在だったら、もし～なら、」など先人や、様々な国・立場の人々の思いや願いを想像する場を意図的に設定する。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 地図帳を活用し、都道府県について特産品や名所などに関連付けて粘り強く学ぶ意欲を喚起する。
- 単元の導入を工夫し、身近な話題や教材等をもとに自らの学習を調整しようとする意欲を高める。
- SDGsの掲示物を活用し、学習内容がどの項目に関わるかを考えさせ、自分たちが社会や世界を支える一員である意識を高め、学びに向かえるようにする。

令和3年度 東泉小学校授業改善推進プラン

○ 教科【算数科】

1 児童の状況及び実態

- 算数が好きな児童が多いが、領域により好きな児童の割合が異なる。
- 考えや答えの見通しをもつことができるようになってきている。
- 筋道立てて説明したり伝えたりする力が不足している。
- 学習内容が定着せず、新しい問題に出会った時に活用することができない。



2 指導についての課題

系統性を重視した指導計画の見直し

【知識及び技能】

- 計算の習熟の場の工夫と、児童への個別指導の改善。問題数や内容の吟味。
- 計算の習熟の徹底。
- 単位換算の習熟。
- 一単位時間の流れと、習熟のための学習の分量の吟味と適切な実施。

【思考力、判断力、表現力等】

- 答えや考え方の見通しの立て方の指導の徹底。
- 自分の考えを式や言葉、図を使って表現する学習の充実。
- 筋道立てて説明する方法の指導と、個に応じた効果的な表現のための指導の充実。

【学びに向かう力、人間性等】

- 集中して根気強く一つのことに取り組むことへの習慣付け。
- 導入の工夫と充実。

3 授業改善に向けての具体的な方策



【知識・技能】

- 計算のきまりを使って簡単に計算できるよさを味わわせ、積極的に活用させる。
- 四則計算の順序を繰り返し指導する。
- 数直線の指導を1年生から系統的に確実に行う。
- 既習事項の掲示を常設する。
- ノート書き方のきまりを統一し、丁寧な指導を行う。
- ミニテストで既習事項の定着を図る。

【思考・判断・表現】

- 図や数の見方、考え方などの指導を全校で統一し、「算数アイテム」として提示し、児童が自ら見通しがもてるようにする。
- 自分の考えを、図や結びつけながら式で表したり説明したりする機会を増やす。友達の表した式を読み取り、理解できたことを説明させる。

【主体的に学習に取り組む態度】

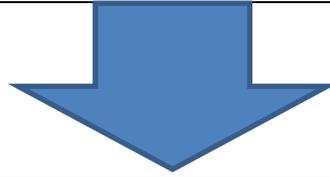
- 既習事項を使い、新しい課題の解決に向けて自ら粘り強く取り組む態度を身に付けられる指導を行う。
- 学習内容の関連性や系統性を基に教材研究を行い、児童が自らの学習を調整しようとする力を育成する。
- 生活と関連付けた問題を多く取り入れる。

令和3年度 東泉小学校授業改善推進プラン

○ 教科【理科】

1 児童・生徒の状況及び実態

- 用語や簡単な事象についてはおおむね理解している。
- 観察や実験の結果と考察を結び付けることが難しい。
- 観察や実験を主体的に計画することが難しい。
- 理科を学ぶことの意義や有用性の認識が低い。
- 実験結果を分析し、考察したことを表現する力に差がある。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

- 暗記にたよることなく、ものごとを関連付けてとらえる学習の充実。
- 用具の使い方、観察の仕方、観察図の描き方の指導の徹底。

【思考力、判断力、表現力等】

- 既知っていること、見たこと、聞いたこと、調べたこと等、総合的な考えを連動させる学習の工夫。
- 考えを伝え合ったり、確かめたりすることを通し、新たな課題を発見する指導の充実。
- 観察したことを絵や図に表す活動の充実。

【学びに向かう力、人間性等】

- 学習する内容を日常生活の事象と結び付ける学習の充実と、学習したことの意義と価値付けの指導。

3 授業改善に向けての具体的な方策



【知識・技能】

- 教師自身が器具や機器などの使用方法を確実に習得し、事前実験等の教材研究に力を入れる。
- 用具の扱い方を確実に身に付けさせ、安全に扱えるようにする。
- 観察や実験の過程や結果を全体で共有する場を必ず設ける。

【思考・判断・表現】

- 見たこと、分かったこと、まとめのとりえ方、表現の仕方を指導する。
- 実験の際のノートのとおり方を統一し、段階的に指導する。
- 観察や実験において、自ら計画を立てる学習を充実する。その観察や実験の前に「変える条件」や「変えない条件」などを確認にし、これによって何をすることができるのかを明確にする。
- 学習で得た内容やまとめを表現する学習活動の充実や国語科を始めとする他教科との関連を図り、児童の表現力を向上させる。

【主体的に学習に取り組む態度】

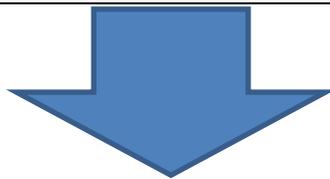
- 学習内容を自らの生活等と関連付け、思考力、判断力、表現力を身に付けられる指導の工夫をする。
- 児童が自らの学習を調整しながら進められるよう実生活に基づいた導入を工夫する。
- 学んだことを実社会に結び付けるための場を設けるとともに適切な評価を行う。

令和3年度 東泉小学校授業改善推進プラン

○ 教科【外国語科】

1 児童・生徒の状況及び実態

- 楽しい活動には興味をもって取り組む。
- 文字に興味をもっており、意欲的に書いたり読んだりしようとする。
- 「話すこと（発表）」を苦手とする傾向がある。
- 経験や技能の個人差が大きい。



2 指導についての課題

【知識及び技能】

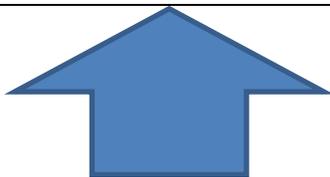
- 経験や技能に応じて各教員が課題を明確にし、指導力向上に努める。

【思考力、判断力、表現力等】

- 人前で話すスピーチ活動の充実。
- 学んだことから必要なものを選んで、自分が相手に伝えたいことを伝える活動の充実。

【学びに向かう力、人間性等】

- 伝えようとする意欲や相手の表現を受けとろうとする意欲を引き出す指導の工夫。
- 外国語科で学習したことを実際に活用する機会の充実。



3 授業改善に向けての具体的な方策

【知識・技能】

- 一人一人が自信をもって活動できるよう、単語や表現の仕方をスモールステップで繰り返し練習する。
また、単元を通して反復練習したり、既習の学習を思い出せるように Review の時間をとり、系統的に学習する時間を設ける。
- 学習の流れを『台東 English Standard』に沿って行うことで、見通しをもって活動できるようにする。
- 絵カードやICTを活用して、視覚的・聴覚的に英単語やチャンツ、フレーズを学べるようにする。

【思考・判断・表現】

- コミュニケーションを行う場面設定を明確にし、必然性をもって話すことができるようにする。
- クラススピーチの前にペアやグループ学習をして、プレゼンテーションの練習をする。
- 既習の表現を使い、small-talk を活用して繰り返し表現練習を行う。
言いたいことを言えた、通じたという体験を積み重ね、自信をもたせる。

【主体的に学習に取り組む態度】

- 振り返りカードを活用し、次の学習の意欲につなげる。
- 英語を自分から使ってみたいと思える機会や、場面を設定する。(TGG の活用など)